

2011.3.14「被災者救出のため挙国一致で取り組み」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

3月11日に東北・関東地方を襲った大震災による凄まじい被害の様子が刻々とテレビで報じられています。この震災によって命を失くされた方に、心から哀悼の誠を捧げたいと思っております。そして、いまだ何万人もの行方不明者がおられるようですが、一刻も早い救出と、災害を受けられた方々の救済を心からお祈り申し上げます。

今日は参議院で予算委員会が開かれる予定でしたが、金曜日の時点で被害の甚大さを確認していたので予算委員会の中止を決定していました。今日は、参議院自民党の国対正副委員長会議があり、正式に明日の予算委員会・公聴人質疑・その他の委員会質疑を今週は休みにして、最優先である災害復旧に全力を注ぐことを決定しました。そして、然る後に政府から災害に関する状況や考え方を聞かせて頂きたいと思っております。

そして本来ならば、先週末の国会で、既に前原議員、菅総理の外国人献金問題などの多くの問題点が出てきており、今週中にも、彼らに退陣を迫る予定でしたが、未曾有の災害の対応を第一にすべきなので、しばらく政治対決は休戦です。今は、災害復旧と被害者救済のために与野党問わず、全力で国を挙げて対応して行きたいと思います。しかし、本来、こうしたことは政府与党を預かる民主党側から野党に話があって然るべきなのですが、全くそのような

様子がないので、我々野党から、国会の休戦を申し入れに行ったのです。ところが、驚いたことに民主党の岡田幹事長などは、早く予算を通してくださいと言いだす始末ですから、私は、彼らが今の状況を分かっているのかと呆れました。特にパフォーマンスばかり続けている、蓮舫議員が節電担当大臣になったり、辻本議員がボランティアの首相補佐官になったりしています。それはやって頂いていいのですが、蓮舫議員は、事業仕分けにおいて、200年に一度の三陸沖の地震に対する防災措置などを切り捨てた人物であり、どの顔してそのようなことができるのかなと思う次第です。

しかし、個々の問題がありますが、まずは被災された方々を救い出さなければなりません。その為、私達は、今回の出鱈目な予算に反対ですが、国民生活に直結する日切れ法案は通すことは前々から宣言していましたので、早くその措置をして頂きたいと思っています。また、予算案には反対ですが、暫定的には予算は通りますから実施できるのです。そして、今後は復興のために数兆円規模の補正予算についても、我々自民党は早急に政府にお願いしたいと思っています。同時に、当初予算に入っているこども手当、高速道路無料化など、ばらまきだけで数兆円あるのですから、そのようなお金をばらまくのなら、それを被災者の方々の復興に使うと考えるのが当たり前だと思うのです。まず、予算を修正して付け替えをしなければならないでしょう。そうでなければ、こども手当等のばらまきをするために復興のための予算が削られてしまうという

ことがあるかも知れないからです。政治としてあり得ないことです。そこは、しっかりと訴えていかないといけないと思っております。今、喫緊の問題は、以上のような問題であると同時に、原子力発電所への東電の対応が後手々に回っていることです。正しい情報を国民に知らせて頂きたいと思います。そして、一刻も早く原子力発電所の炉心が冷却されて元に戻ることを祈るばかりです。

今回の大惨事は、日本の様々な問題について根本から問い直す問題だと思っております。目先の問題、人気取りばかりが優先され、国家の非常事態に備えたインフラ整備が十分出来て来なかったことや、非常事態に備えた法律や組織の不在、自衛隊が災害復旧を目的に掲げながら削られてきたという現実などを含めて、政治の原点である国民の生命・財産を守ることを与野党問わず肝に銘じ、今回の震災に臨んでいかなければなりません。我々自民党も協力して、早く救済の手が伸びるよう応援しますので、皆様方も頑張ってください。心をこめてお祈り申し上げます。私も、一生懸命頑張りますので、頑張ってください。ありがとうございました。